

広次

忠彦通信

No. 185

2010年10月5日

日本共産党大分市議団

学校給食の巨大調理場 “コスト”と民営化が強調されていますが…



西部調理場はだいじょうぶ？

今月から西部共同調理場が稼働をはじめました。市長は、「これまで以上に『安心で安全』な給食が提供される」と提案理由説明をしました。わたしは、巨大な共同調理場では、食育にとっても、安全対策のうえからも問題があることを指摘してきました。そのことは、東部共同調理場で、稼働直後に羽虫が混入し、数千人の生徒・児童が2つの副食のうち1つを食べられなかったという事態が発生し、巨大調

調理場の問題

点が見明らかになりました。事故のな

いように「安心で安全」な給食が提供、食育の推進、地産地消、中小業者支援について要求しました。

給食費は食材分だけに

大分市の学校給食では、食材費のほかに、ガス代、洗剤やエプロンなどの消耗品費が保護者負担となっています。旧佐賀関町、旧野津原町では食材費だけが保護者負担でした。合併後両地域の給食費は値上げされてしまいました。保護者が負担する給食費は、食材費だけに改善するように要求しました。

教育部長は「施設および設備の修繕費以外の経費は保護者負担」と答弁しました。この基準で、多くの自治体は食材費だけ

東部共同調理場			
中学校	13校	7114食	
小学校(佐賀関)	4校	412食	
		計	7535食
西部共同調理場			
中学校	14校	6600食	
小学校(野津原)	3校	206食	
		計	6806食
2010年9月17日現在			

203ミリゅう弾砲の演習再開 安全の確保は？



が保護者負担です。大分市も食材費だけにさせましょう。



2008年5月の県道へのりゅう弾飛散事故以後、203ミリゅう弾砲の砲撃訓練を中止していましたが、図を示しながら、「危険区域から県道を除くなどした」から再開すると、西部方面隊広報室は言いますが、十分な説明になっていません。再開当日、現地調査しましたが、爆発のすごさに驚きました。安全対策を求めていきます。

日頃の「いま

9月18日 大分県革新懇

の講演会で、品川正治さん(経済同友会終身幹事)のお話を聞きました。「戦争をおこすのも人間。それを許さず、とめることができるのも人間。戦争できる国にしようとするのは誰なのか、おれはどっちか、これが基本軸」というお話しに感銘。わが身のおきかたをあらためて考えました。

日本共産党と広次

当時の大分大学には、ヘルメットをかぶり、マスクをして、学内でデモをする人たちがいました。青いヘルメットで『反帝学評』と呼ばれていました。「大学紛争」も終わりがちでしたが、異様な雰囲気をかもしだしていました。一方、教育学部学生自治会は、教育系学生ゼミナールなど、学生の学ぶ環境を充実するために努力をしていました。私は、こうした活動に共感し手伝いもしていました。(続)